

# 新潟県 実施計画の概要立案

2023年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画)

# 都道府県内の緩和ケアの現状

## 都道府県内の緩和ケアに関する課題・問題

- ・ 緩和ケアに関する医療資源が少なく、地域格差がある  
(緩和ケア病棟、緩和ケア専門医・認定医、神経ブロック治療が可能な病院など)
- ・ 緩和ケア科医師の育成が進まず、高齢化してきている
- ・ 緩和ケアの専門的な知識を学べる施設が少ない
- ・ 緩和ケアチーム加算が算定できる施設が少ない  
→ 13施設中4施設 (精神症状担当医師不在など人員不足のため)
- ・ 医療施設間のつながりが弱く、離れた圏域のリソースが把握できない
- ・ 在宅療養支援診療所はあるが、がん患者をみてくれる訪問診療医が少ない  
(症状緩和や心理サポートに対する負担が多いため?)
- ・ 圏域別に医療の重点課題があり、病院の機能分化が進んでいる  
→ 新潟圏域は救急医療に重点が置かれ、緩和ケア病棟が増えない傾向にある

# 都道府県内の緩和ケアの質向上に向けた 今後の方向性

## 都道府県単位の取り組みで目指したいこと (ゴール)

病院や地域と顔の見える関係性を築き、緩和ケアに関する情報を共有できる体制の構築。

→その地域での緩和ケアの質を確保できる

## 都道府県単位の取り組みで扱いたい内容と方法

・新潟圏域のがん診療連携拠点病院3施設の緩和ケア提供体制に関する課題や問題を抽出（がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供体制に関するピアレビューを使用）する。その課題について3施設でカンファレンスを行い対応策を検討していく。その後、代表メンバーにて活動の評価を行い、新潟県緩和ケアチーム研修会にて活動報告を行うことで、活動範囲を徐々に新潟県全体に拡大していきたい。また、課題については自施設で解決に向けた活動を継続していく。

# 企画概要

## 企画名

深めよう！がん診療連携拠点病院の絆！

## 目的

新潟圏域のがん診療連携拠点病院拠点病院での緩和ケアチームの問題点や課題の抽出と検討

## 目標

がん診療連携拠点病院間での緩和ケア提供体制の整備・充実

## 対象者・人数

対象者：新潟圏域のがん診療連携拠点病院の緩和ケアチームのメンバー

人数：20人程度

がんセンター最大10名(医師・看護師・薬剤師・理学療法士等)、市民病院・大学病院最大5名

## 開催期間・時間・開催形式

16：30－17：30（1時間）各施設×3回実施 ZOOM

## 実施主体

新潟県立がんセンター新潟病院、新潟市民病院、新潟大学病院

# プログラム

## 1日目（各病院主催で3回開催）

開始	終了	時間	研修方法	内容
16 : 30	16 : 35	5分		はじめの挨拶（担当：主催の病院）
16 : 35	16 : 50	25分	主催病院による病院紹介	各施設の緩和ケア提供体制の紹介 （国がん：がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供体制に関するピアレビューを使用し事前に配布）
16 : 50	17 : 20	30分	主催病院の検討事項に関するカンファレンス	事前配布された資料を基に主催病院の困りごとについてディスカッションを行う
17 : 20	17 : 30	10分		まとめ（担当：主催の病院）

3施設の発表終了後、代表メンバーで対面またはオンラインにて研修の評価を行う